

登録コード	UAC20500	開講年度	2026				
授業題目	日本史研究				担当教員	塩原 佳典	
					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				日本史研究（特に近現代史）に必要なとなる史料読解や史料収集の方法を身につけること。		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				日本史研究（特に近現代史）に必要なとなる史料読解や史料収集の方法を身につけること。		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				日本史研究（特に近現代史）に必要なとなる史料読解や史料収集の方法を身につけること。		
(2)授業の概要	この授業では、学校所蔵史料から地域社会の歴史をうかがうことを主題とする。具体的には、『史料開智学校』を主たる手がかりとして、史料を読み、調べたことを報告、さらには討論する。史料を読むことに先だって、学校所蔵史料の特徴や研究史、開智学校の歴史から展望される歴史像について共有し、批判的に吟味する。						
(3)授業計画	第1週 ガイダンス（授業の進め方、順番決めなど） 第2週 レジユメの作成、講読準備の方法など 第3週 学校所蔵史料の特徴と研究状況 第4週 創設期の開智学校にみる学区の共同性 第5週 『史料開智学校』を読む（読み合わせ） 第6週 『史料開智学校』を読む（読み合わせ） 第7週 『史料開智学校』を読む（読み合わせ） 第8週 『史料開智学校』を読む（読み合わせ） 第9週 受講生による中間報告 第10週 『史料開智学校』を読む（講読報告） 第11週 『史料開智学校』を読む（講読報告） 第12週 『史料開智学校』を読む（講読報告） 第13週 『史料開智学校』を読む（講読報告） 第14週 受講生による総括報告 第15週 まとめ 定期試験：実施しない						
(4)成績評価の方法	報告の内容、討論への参加をもとに評価を行う。無断欠席は認めない。						
(5)成績評価の基準	「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに発展的な報告内容としてまとめ、討論にも積極的に参加している」（卓越している） 「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」（やや上にある） 「蒐集した史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」 「報告内容をまとめ、討論にも参加している」（合格水準にある）						
(6)事前事後学習の内容	初回に発表順の分担を決定する。報告にあたっては、参考文献を複数冊読み込み、レジユメ作成にあたること。						
(7)履修上の注意	無断欠席は認めない。毎回、史料や文献の予習をして臨んで下さい。						
(8)質問、相談への対応	オフィスアワーなどを利用し対応します。面談を希望される場合は、事前にアポイントをとってください。						
【教科書】	共有する史料については、初回にコピーを配付します。						
【参考書】	議論の内容をふまえ、適宜紹介します。						